

Gender Equality

今とこれからを輝いて生きる

一人ひとりが尊重され、
住みたくなる 魅力的な小都市へ

市内在住の長野悦子さんは、長年、農林水産省九州農政局に勤務し、九州各地で農山漁村の女性支援や農村の振興などに関わってきました。その経験を踏まえ、令和4年度から第11期小都市男女共同参画社会推進審議会委員に就任。

長野さんは在職時、農山漁村の女性たちと共に活動し、そのパワーを身近に感じていました。その一方、農政に関する方針決定、意思決定に参画できる女性の割合が、当時わずか1割以下であったことに驚き、「男女共同参画が実現すれば、さらに女性の力が発揮でき、社会も良くなる」と感じていたそうです。そんな長野さんに、女性の社会進出と審議会委員としての抱負を伺いました。



小都市男女共同参画社会
推進審議会

委員 長野悦子さん

プロフィール

熊本県球磨郡あさぎり町出身。

昭和62年年農林水産省九州農政局に採用され、令和3年3月に退職するまで、農村振興や農山漁村の女性支援などの業務に関わる。

「女性のパワーに驚かされましたが……」

Q. 農山漁村での男女共同参画について聞かせてください。

A. 平成18年ごろ農政局で、女性農業者が「正当な評価をされるようになること」「社会参画しやすくなること」、この2点の環境整備・支援を担当していました。現場の女性農業者は、とにかくパワーフルで、農産物加工品での起業、直売、食育、農業の知恵や技術を生かしての経済活動、地域のまちづくり活動、ボランティア活動などを展開していました。農作業も担いながら、家事や育児、介護も行っていました。

ところが、農業委員や理事などの意思決定の場では、女性は1割に満たない登用数でした。これほどパワーフルに活動している女性が参画できる状況ではなかったのです。

Q. どうして女性が参画できなかったのでしょうか。

A. 課題の一つとして、育児や介護で会議に出ることができないという要因がありました。しかし、それは「女性個人の問題」で片づけてはいけないものではないかと思うのです。女性が進出する障害になっているさまざまな問題の裏側にある要因が何なのか、「社会や地域の問題」として掘り起こし、変えていくことが必要であると感じました。

Q. 女性が活躍できないのは、社会にとっても大きな損失ですね。

A. 数年前、九州で大規模な水害がありました。その際女性たちは、高齢者への弁当の提供や地域での助け合い活動など、さまざまな人たちと連携していました。私は地域で生活者の目線をもった女性たちが主となって活動したのを見聞きして、本当に女性たちが活気に満ちて生き生きと活動できる社会になってほしいと思いました。



小郡での地域における役職などへの女性の参画状況 (令和4年6月1日調べ)

「民生委員・児童委員」の女性比率は高いものの、「区長」や「自治公民館長」などの役員のほとんどは男性が務めていることがわかります。暮らしやすい地域社会を実現するためには、性別に関わらず、多様な考え方の人たちの意見をできるだけ生かす必要があります。

市は、地域活動や地域の役職に男女が共に参画できるよう、今後も女性の積極的登用を推進していきます。

	総数	うち女性の数	女性の比率
区長	62	1	1.6%
民生委員・児童委員	94	71	75.5%
小学校PTA会長	8	0	0%
中学校PTA会長	5	1	20.0%
自治公民館長	69	1	1.4%
スポーツ推進員	16	2	12.5%

配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？ひとりで悩まずに相談してください。

おごおり女性ホットライン ☎092-513-7337

月～金曜日 / 10時～17時(祝日、12月29日～1月3日を除く)

配偶者や恋人からの暴力についての相談のほか、セクシュアル・ハラスメントや仕事、地域、家庭のことなどさまざまな悩みに、専門の相談員が対応します。



「女性も男性も……多様な人々の考え方を柔軟に取り入れ、開かれた自治会活動を」

Q. 退職後、地域での男女共同参画の状況をどう感じられましたか。

A. 長い間、仕事で各地を転々としてきましたが、退職後、小郡市で毎日を通るようになりました。地域は暮らしの現場であり、国の基盤です。ですから、地域の充実こそが、人々を豊かにするのだと思います。

これからは、地域に住むいろいろな人にとって、さらに身近な自治会運営が必要になるように思います。女性も男性も、いろいろな年齢層の人も、元からの住民も他の地域から転居してきた住民も、そして海外にルーツを持つ人たちも……。性別など関係なく多様な人々の考え方を柔軟に受け入れ、誰もが参加しやすい開かれた自治会活動が求められているのではないのでしょうか。

Q. 審議会委員としての抱負をお聞かせください。

A. 多くの市民の皆さんに、男女共同参画社会について考えてもらうための情報提供を続けながら、現在の課題は何かをいつも検証し、課題をどのように解決していくのか、実践的な取組が問われてくるように思います。

これまで経験したことを踏まえて、小郡市民一人ひとりが尊重され、住みとなる魅力的なまちになるよう、自分自身も学びながら関わっていきたいです。

